

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

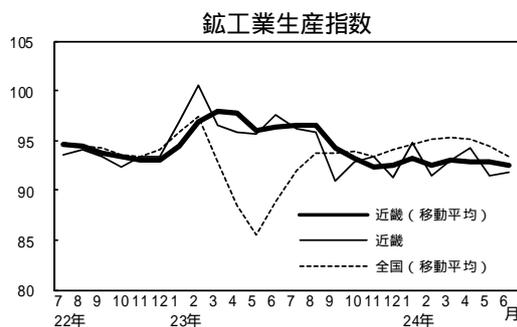
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年5月)	今回(平成24年8月)	
雇用情勢	持ち直しの動き	緩やかに持ち直し	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械はボイラ・原動機や半導体・フラットパネル製造装置、繊維機械等の不振により減少している。化学は化粧品で新商品の販売等があったこと等から増加している。食料品・たばこは酒類等で減少している。電気機械はセパレート形エアコンが夏の最盛期に向けて例年より増産されたこと等から増加している。鉄鋼は熱間圧延鋼材等で減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	17.0	1.1	5.5	5.5	5.2
化学	14.5	5.3	2.2	0.4	11.2
食料品・たばこ	9.1	3.0	0.7	1.9	1.1
電気機械	8.5	6.0	0.7	4.0	1.8
鉄鋼	7.5	4.8	3.8	1.3	1.2
鉱工業	100.0	0.6	0.6	0.7	0.4

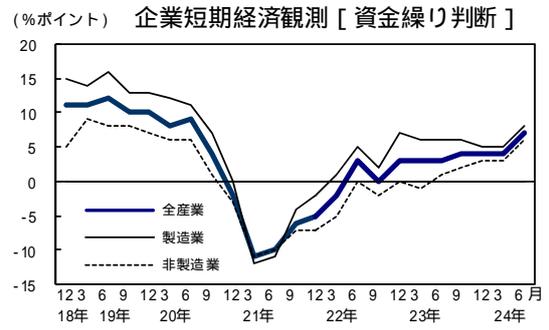
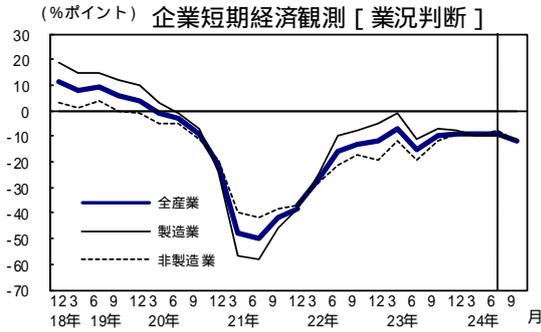
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

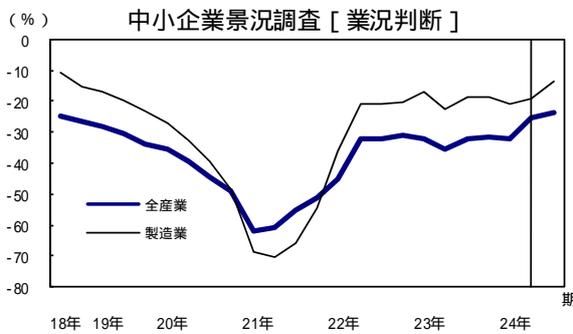
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年9月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「薄型テレビ等のAV商品は、オリンピック需要の伸びもなく停滞している。家電量販店の来客数自体が少なく、荷動きは依然鈍化傾向にある(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

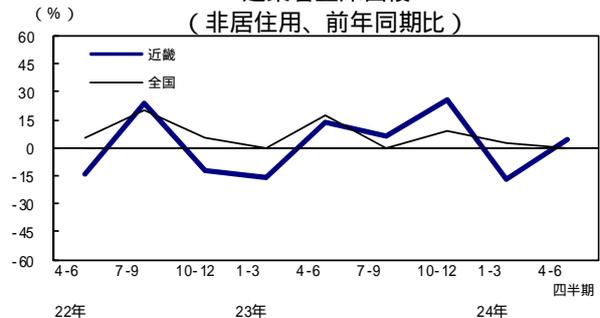
企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	8.6( 3.6)	7.4(3.5)
製造業	9.8( 4.7)	5.2(0.5)
非製造業	7.8( 2.7)	9.0(5.8)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。

建築着工床面積

(非居住用、前年同期比)



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

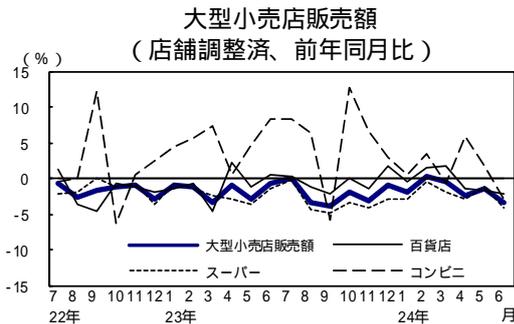
大型小売店販売額は、前年同期比で2.4%減、前期比で1.1%減となった。

百貨店は、4月は、衣料品は好調であったものの、飲食料品、身の回り品、家電関連等のその他の商品が軒並み低調で前年を下回った。5月は、土日祝日の数が前年より2日少なかったことから前年を下回った。6月は、月後半の気温が低かったため、夏物商品が全般的に伸び悩み、前年を下回った。

スーパーは、気温が例年より低い日が多く衣料品が低調であったことや、依然として前年のエコポイント特需の反動により、テレビやレコーダー等が不振で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「今年も猛暑になりそうな雰囲気があるほか、やはり節電の影響からか、来客数の伸びに勢いがあまり感じられない(テーマパーク)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	2.3	1.9	0.8	2.4
百貨店(*1)	0.9	0.4	0.9	1.8
スーパー(*1)	3.1	3.4	1.8	2.8
大型小売店(*2)	0.2	0.0	1.1	2.0
(季節調整値)(*3)	( 0.1)	( 0.2)	( 0.8)	( 1.1)
乗用車(*4)	18.4	24.9	47.0	66.0
(季節調整値)(*4)	(30.4)	(6.8)	(16.8)	(3.8)

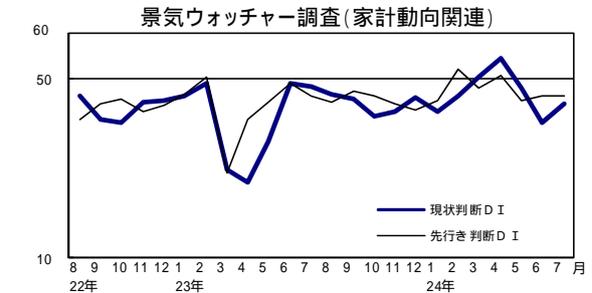
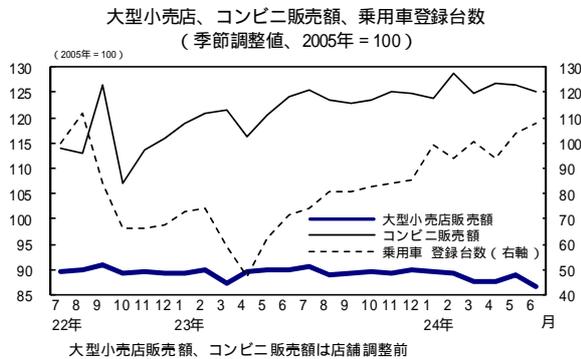
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

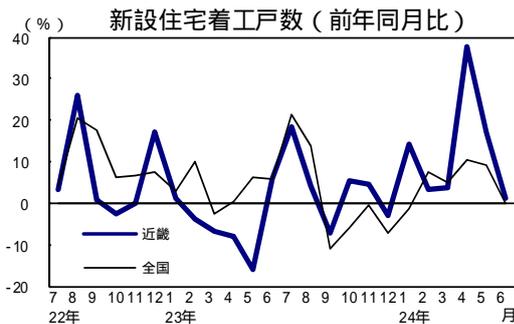
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

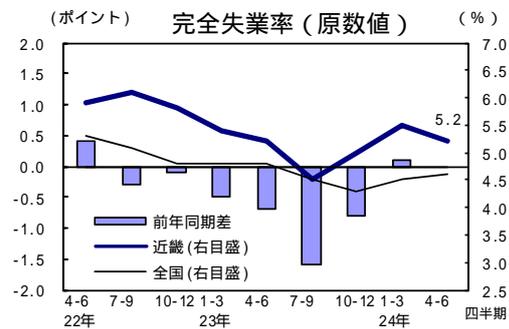
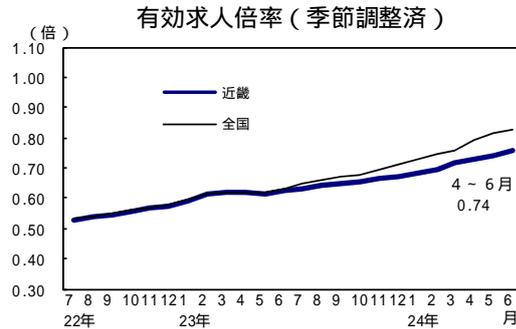


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

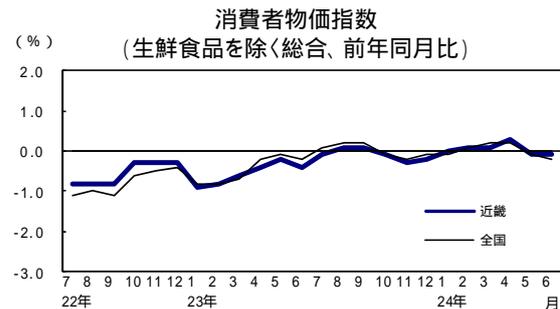
「新聞等では大手企業が採用数を抑えている記事をよくみかけるが、我々が普段からお付き合いしている中堅、中小企業の話を見ると、採用に対して積極的な姿勢がみられる（学校[大学]）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月	24年7月
倒産件数	839	858	788	799	288
(前年比)	2.6	11.0	8.1	11.4	1.1
負債総額	1,121	1,329	1,019	1,565	4,166
(前年比)	18.4	68.2	29.5	52.4	1,371.5



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・節電家電への買換え需要が堅調で、エアコン、冷蔵庫の販売の動きが活発である（家電量販店）

<先行き>

・取引先の自動車業界からは、エコカー補助金の終了に伴い、秋以降は生産調整を行うとの声が聞こえてくる（金属製品製造業）

